

準備書説明会での住民の発言

○ イメージ写真をみると現在の景観と調和の取れた新たな景観になるものと予測すると、非常にいい言葉が書いてあるが、小さい頃から地元で育ってきた私達にしてみれば、「コンクリートの塊が」と、そういう認識だ。決して、まだ反対だということは無理だと思うが、そこで提案だが、橋脚のデザインについての提案があったが、高架橋の橋脚間の間隔が平均40mとの話だったが、ところが、18ページの図で見ると、天竜川を渡る500mの橋は3本のピアーで渡る。そういう構造物を平地領域においても採用できないか。工事費は高騰すると思うが、若干部分であれば料金に反映してもよいのではないかと思う。そのために地元の住民が辛抱するという事はできないと申しあげたい。

○ 発表された路線を見たとき夜も眠れずに今日まで過ごしている方が多くいる。毎日不安な日々を送っている。何の前触れもなくいきなり、最近の予想では北を通るだろうと言われていたが、そのような中で、十分な説明会を行なっているような話だが、決して十分とは思わない。できれば北自治会をもつコミュニティで準備書の説明会を開けば多くの意見、またここに参加していない人の意見も聞けるのではないかと思う。(工事前の説明会が開かれるのが)認可されてからということだが、心のケアの方も是非行なってほしい。

日照権について山梨の例があると思うが、どういう補償をしてきたのかその実績を答えていただきたい。

路線の中には反対する人もいると思うが、最後に土地収用法の適用が行なわれるのか

(参考)JRの回答：中央新幹線の建設事業は土地収用法の第3条に該当する公共事業で、土地収用法の適格事業になる。しかし、当事業の必要性、それから公益性を地権者の皆様にしつかり説明し、当事業に対しご理解いただけるよう進めていきたいと考える。

(参考)“公共事業、それは理に叶い、法に叶い、情に叶うものでなければならない。そうでなければ、どのような公共事業も挫折するか、はたまた、下筈(しもうけ)の二の舞をふむであろうし、第二の、第三の蜂の巣城、室原(むろはら)が出てくるであろう。”(室原氏の随想「下筈ダムと私の反対闘争」より)

○ 阿島北の地籍の住民です。ルート情報を知ったのは準備書の公表の時です。それまでは何も知らされなかった。ルートの北側の51m以内の地域は、冬至のころには、1日5時間が日影になるとされるが、これは1日中日影になるということで我慢できる数字ではない。フードをとる工夫をして日照を確保してほしい。防音壁をリニア本体に取り付けリニアごと走るという発想で設計してほしい。法の定めにより対処すると言うが、太陽はお金で買えるものではない。少しでも日照が長くなるよう考慮願いたい。「仮に」リニアが通ったらといいましたが、喬木村のホームページには「喬木村に住んでみませんか」のタイトルがあり「椋鳩十が愛した夕日の映える村、喬木村の魅力を紹介します」というページがある。椋鳩十が子供の日々に見た夕日そのまま今の喬木村にはある。喬木村はどこからでもこの夕日がみえるので是非住んでもらいたいと各種制度の紹介が書かれている。これは村の政策である。準備書を受け入れると、どこからでも夕日が見える村が、北の〇〇区域などは夕日の見えない村になってしまう。椋文学の故郷として、記念館、散策コース、墓地などを整備し、銅像もある。椋の作品の中には喬木の美しい夕日が頻りに描かれている。椋の生地は準備書に書かれたルートの沿線だ。日影になる〇〇〇辺りから椋は夕日を見たはず。(司会者より要点をまとめよとの声) ちょっといわせてください。喬木村の夕日は座光寺の恒川遺跡と同じように喬木村にとっては自然遺産である。一部でも夕日が見えなくなることは村の政策に反する。村の椋への姿勢を住民は了承してきた。村の政策がそうである以上、リニアは喬木村の地上を通過できないのではないか。村も毅然とした姿勢で準備書に反対の意見を述べていただきたい。

○ 路線の駅の中に入っている者だが。新聞によれば、新年度の予算で着手すると出ていた

が、着手とはどこまでのことをいうのか、たとえば移転まで含むのか、それは何年くらいになるのか聞きたい。

先ほど代表の方が質問したが、これだけ多くの方の中で質問することは大変だ。私どものところは飯沼、北条です。飯沼、北条の自治会、町づくり委員会のものですが、そこでこういう詳しい説明会をしていただけないか、それを路線の、この本当に不安なんですよ、そういうのをお願いできないものかお答えいただきたいと思います。

○ 環境影響評価の調査の結果は示されたが、長い長大なトンネルの中をくぐるリニアそのものの安全性というものがわからない。乗務員がのらなしに、コンピューターで運転するというようなこのシステムが500kmという乗物として本当に安全なのかどうかということについて説明していただきたい。

皆さんのご親戚のJR北海道は脱線することがわかっってもなおせれないというような経済状態で運営されとるということは数週間まえから報道されていますが、そんなことにならないようなことをきちんとやっていただきたい。

環境評価について調査した結果、影響が少ないといろいろの問題で説明を受けたが、皆さん忍者のようにほうぼうで調査してきたのだと思うのだが、本当に私達がぜんぜんわからないところで調査して、それで本当に環境に影響が少ないということがいえるのか不安だ。どういうきちんとした調査がされてきたのかももう少し詳しく説明をしていただきたいと思います。

最後に、私達の地域の皆さんは、多くの皆さんが、家(うち)を移転しなければならない。いきなりふってわいたようなことで不安で仕方ないというのが、すべての皆さんの意見であります。そういう点で、2年前に発表されたのは、下市田の駅のところへ行くと、それが、どうもだんだんいって、恒川清水を守らんならんで、ちょっと移動すると、猿庫の泉を守らんならんで、ちょっとそれも考えると、ということで、とうとう飯沼まで来てしまったんですね。遺跡も大事です、猿庫の泉も大事ですが、私達の部落には多くの皆さんが、人類が生存しておるんです。ここの皆さんの環境を破壊するようなことは本当はしてもらいたかないというのが私どもの意見であります。そういう点で、この問題については、地元の皆さんとよく、私どものところで懇談をして納得のいくまでやってもらって進めていただきたいというのは、私の意見であります。そういう点で、先ほどの説明がありました。土地のつづれ地の用地の取得は飯田市にやってもらうとさっき説明がありましたが、この補償の問題、これは、JRの部分はJRでやるのか、それとも飯田市に丸投げするのか、飯田市や県で取得する土地についてはそちらの基準でまたやるのかと、そういう点がちょっとわからないんですね。そういう点で、本当にJRのつづれ地についてはJRが地元の皆さんとよく膝を交えて納得するまでやってそれから進めて行くと、そういうことをきちんと約束していただきたいと思いますが、その点はいかがでありますでしょうか。以上の点についてお聞きしときたいと思います。

○ 丁度トンネルから出る近くにおりまして心配しておりましたが、若干南のほうへいったということで、私どもの近所ではほっとしておりますが、とにかく今までの説明のなかで、イメージ図等からみて、非常に遠くの人たちは大変景観もいいじゃないか、というような、上手な作り方をしておるかと思いますが、そのほんと直接、建物、建物じゃなくて、工事によってかかわる近所の人たちについては非常に、私も、8月29日の、丁度、実験線の延長のときに、地元へいってみせていただいたんですが、やはり、付近の皆さんは、集落が非常に分断ということイメージはありませんでしたけれども、やはりその構造物等で非常に哀れといいますか、気の毒なそんな姿をみてまいりました。そういうことで大勢の皆さんは、やはりこの大プロジェクトのなかで歓迎はするとは思いますが、そういうほんとう直接的に不安だ、また困るといった人たちの対応をぜひJR東海さんでせいっぱいのこの相談にのっていただいて、あとでくいのないような、そのゆずっていただいた皆さんにくいのないような対応を是非お願いをしたい、強く要請をし、またそれにたいする回答をいただきたいと思いません。